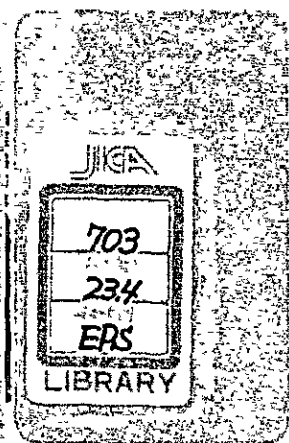


業務資料 No.591

工業技術移住者実態調査報告

1980年12月

国際協力事業団



移計調
J R
80 - 14

業務資料 No.591

工業技術移住者実態調査報告

1980年12月

国際協力事業団

JICA LIBRARY



1024407C7J

移計調

J R

80 - 14

国際協力事業団	
---------	--

受入 月日 '84. 3. 19	703
登録No. 00908	23.4
	EPS

は し が き

昭和54年度の工業技術移住者実態調査は、従前と異なりブラジルばかりでなくアルゼンティン、パラグアイ、ボリヴィアにおいても実施した。

ブラジルにおいては、過去に4回の実態調査を実施した経緯から、本年度は工業技術移住者として移住し、現在、独立自営している者を対象として調査を実施した。

西語圏（アルゼンティン、パラグアイ、ボリヴィア）では、工業技術移住者として移住したものの現状を調査した。しかし、各国における調査方法、集計方法も異なり、又、調査件数も少ないため西語圏への工業技術移住者の一般動向を把握するデータとして不十分であることは否めないが、業務の参考までにここに結果を取めた。

ブラジルにおける今回の調査方法は、初めての試みでもあり調査内容に不備な点もあったが、工業技術移住者が移住後独立する場合のいくつかの問題点を明らかにしており、業務上からも、又、独立を希望する移住者にとっても興味深いものであろう。大いに活用願いたい。

最後に、本調査の実施にご協力いただいた移住者各位に深く感謝の意を表す。

移住計画調査部長

目 次

I	ブラジル：工業移住独立自営者実態調査	1
1.	調 査 目 的	3
2.	調 査 方 法	3
3.	調 査 結 果	8
4.	若 干 の 考 察	15
II	西語圏：工業技術移住者実態調査	17
1.	アルゼンティンにおける調査結果	19
2.	パラグアイにおける調査結果	21
3.	ボリビアにおける調査結果	25

1. ブラジル

工業移住独立自営者実態調査

1. 調 査 目 的

工業技術移住者として移住した者の内、現在、独立自営している者について移住から独立への経緯および現在の状況等を調査し、工業技術移住者の内で独立を希望しているものや工業技術移住を希望する者に対する相談、指導のための資料とすると同時に、融資業務を含む当国の移住者独立対策基礎資料として活用することを目的とする。

2. 調 査 方 法

今回調査は、昭和53年度に実施した、昭和36年度から52年度までのブラジル工業技術移住者（公募）1,350名に対する実態調査（業務資料№526参照）により、独立自営していることが判明した者およびその後独立が判明した者に対して調査票（資料1）を配布もしくは調査票による聴取調査を実施した。調査票回収数は77件であった。

調査時期は、昭和54年12月～55年2月を中心とした。

資料 1.

No.1

工業移住 独立自営者 実態調査票

(一) 一般状況

No.	調査日	19 年 月 日	調査員	
氏名	ローマ字			
生年月日	19 年 月 日(満才)	滞伯年月	19 年 月 日(当時才で在伯年)	
出身県	滞伯時	A 未婚 B 既婚(子供人)	現在	A 未婚 B 既婚(子供人)
最終学歴	中学, 高校, 桑野期, 専門学校, 短大, 大学, 大学院, (中退 卒業)			
引受企業			滞伯時の職種	
住宅	I A. 独立家屋 B. アパート C. 間借り D. 下宿 E. その他()			
	II A. 自己所有 B. 払込中 C. 賃借 D. その他()			
資産	A. 不動産()			
	B. 車, その他()			
現住所	FONE.			

(二) 自営状況(※共営を含む)

会社名	(自営, 共営)			
所在地	(FONE)			
設立年月	19 年 月 日	自己出資	%	
資本構成	(代表者)			
資本金	A. 設立時 Cr\$		B. 現在 Cr\$	
敷地面積	I 土地 m ²		建物 m ²	
	II 自己所有		賃借(Cr\$) 払込中(Cr\$)	
生産品目				
主な取引先				
労働時間	週 日制	時間	従業員	人(日系 人)

(三) 経営内容

収 支 状 況	月平均収入																										
	月平均支出																										
	月平均利益																										
機 械 設 備 評 価 額	1.		Cr\$																								
	2		Cr\$																								
	3.		Cr\$																								
	4.		Cr\$																								
	5		Cr\$																								
	6		Cr\$																								
	7.		Cr\$																								
	8		Cr\$																								
	9		Cr\$																								
	10		Cr\$																								
			TOTAL	Cr\$																							
売 上 高	1975		Cr\$																								
	1976		Cr\$																								
	1977		Cr\$																								
	1978		Cr\$																								
平均給与	技術者 (Cr\$) 技能工 (Cr\$) 操作工 (Cr\$																								
本人月収	Cr\$																										
(借入金の内訳)																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>融 資 機 関 名</th> <th>返済期間</th> <th>利 率</th> <th>用 途</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				融 資 機 関 名	返済期間	利 率	用 途																				
融 資 機 関 名	返済期間	利 率	用 途																								

(貸借対照表)	(損益計算書)

(四) 独立時状況

独立の動機	1. 移住した時からの希望 2 自己の能力を試す 3 よりよい収入が望める			
	4 たまたまチャンスがあった 5.小資本でも独立可能だった 6.サラリーマンからの脱皮			
	7. その他			
独立資金	総額 Cr\$	(設備・Cr\$	運転資金外・Cr\$)
資金の調達法	1. 自己資金	%	2. 日本からの送金	%
	3. 市中銀行	%	4 その他	%
準備期間	1. 1年	2. 1年～3年	3. 3年～5年	4. 5年以上
最も苦勞した点	1. 資金繰り	2. 言葉	3 人材不足	4. 法令関係
	5. 材料不足	6. インフレ	7. 取引先の開拓	
	8. その他			
軌動にのるまで	1. 1年	2. 2年～3年	3. 3年～4年	4. 現在も努力中
独立に要した諸手続				

(五) 事業団工業融資

受けた経験	1. あり(19 年………独立 午後, Cr\$ 2. なし
今後	1. 希望する(Cr\$ 程度), 2 希望なし
用途	
担保物件	1. あり(物件) 2. 担保を提供する保証人あり 3. なし
保証人	1. あり 2. なし
要望事項	

(六) その他

将来への抱負	
後輩採用の意志	1. あり 2. なし
独立希望者へのアドバイス	
(渡伯後の略歴)	

年 月

3. 調査結果

(1) 回答者の傾向

調査方法の項で述べた回答者77名について渡航年次別、年齢別、学歴別に集計すると表1～表3の通りである。

(表1) 渡航年次別回答者数

渡航年次	回答数	渡航年次	回答数
	件		件
1961年	6	1969年	5
1962	0	1970	2
1963	3	1971	2
1964	0	1972	3
1965	4	1973	12
1966	11	1974	8
1967	7	1975	8
1968	3	1976	2
		1977	1
		計	78

(表2) 年齢別回答者数

年齢	回答数	年齢	回答数
30才以下	5件	41～45才	13件
31～35才	13	46～50才	7
36～40才	36	51才以上	4

一番若い者27才、最年長者は62才。

(表3) 学歴別回答者数

学歴	回答数	学歴	回答数
中学卒	6件	短大卒	3件
高校卒	31	大学卒	16
秦野修了	8	回答なし	1
専門学校修了	13		

(注) 秦野とは、神奈川県立秦野職業訓練校(現、神奈川県立横浜高等職業訓練校)の工業移住課コースのことである。

(2) 調査結果

ア. 経営形態

自営者48名に対し、共同経営者30名となっている。

イ. 業 種

業種区分は非常に難しいものであるが、ごく一般的な区分を試みてみた。(表4)
工業分野以外即ち、レストラン、農業、洋品店等の小売商への進出もみられる。
しかし、電気、機械関連が約半数を占めている。

(表4) 独立自営業種

業 種	件 数	業 種	件 数
電気機器修理	15	化学・夾品	2
電気設備工事	10	自動車修理	2
レストラン	6	金型製造	2
機械部品加工	6	非鉄、鋳造	2
各種設計	5	農 業	2
木型・木工	4	そ の 他	8
洋品店、製菓業	4	計	78

ウ. 移住から独立までの年数

当初より資金を携行し、即時独立したケース(工業技術移住者というより企業移住者もしくは資金携行移住者と呼ぶほうが適当とも考えられる。)から、最長16年を要して独立したものであり、一定の傾向はない。又、渡航時期によって、独立までの時期に差があるわけでもない。

(表5) 移住から独立までの年数

年 数	件 数	年 数	件 数
2年以下	17	9～10年	7
3～5年	34	10～15年	8
6～8年	11	16年以上	1

エ. 独立の準備に要した期間

1年以内としものが43件と全体の55%と多い。これに3年以内とする22件を加えると83%となり、独立を決意すると意外に短期間に独立を実現している。工業技術移住者の多くが移住時から独立の希望をもっているため、独立の計画が具体的になる以前から必要な知識の吸収に務めているからかも知れない。3～5年6件、5年以上2件、回答なし5件というのが他の回答である。

オ. 独立までの転職経験

移住後、独立までにどの程度転職を経験しているかを見ると1回33件、2回23件、3回16件と意外に少ない。4回というのが5件あるが、5回以上はない。(回答なし1)やはり独立を目指してやっている姿がうかがえる。

なお、昭和53年度の調査でも明らかなように、ブラジルの工業技術移住者の転職回数は比較的少ない。

カ. 独立資金、資本金

独立資金、資本金共にクルゼーロ下落率の異常に激しいブラジルでは一率比較することにあまり意味がない。特に独立資金については、ドルで回答しているものもあり集計は行なわなかった。

なお、独立資金の調達法を見ると60名が100%自己資金によっている。(渡航時の携行資金によるか、移住後得たものかは不明)市中銀行を利用したものは2名のみであった。これは利用しなかったというより、出来なかったということの意味するかも知れない。

資金の一部又は全部を日本からの送金によった者は7名、友人等からの借入は6名であった。(回答なし3)

現在の資本金の額については、表6の通りである。

(表6) 資本金額

金額	件数	金額	件数
5万以下 ^{Cr\$}	15	50万以下 ^{Cr\$}	4
10万以下	14	100万以下	10
30万以下	18	100万～	10

(マッサージ師1, 回答なし6)

キ．事業が軌道に乗るまでの期間

先に見た通り独立準備期間は意外に短かったが、独立してから事業が軌道に乗るまでは、やはり苦勞の跡が見られる。表7に見る通り1年以内と答えたものは少なかった。但し、現在も努力中との答えは、独立時との関係で考えなければいけないが、全体として独立後3年間程度がかなり大変な時期であるようだ。

(表7) 軌道にのるまでの期間

期 間	件 数	期 間	件 数
1 年 以 内	1 2	現 在 も 努 力 中	2 2
2 ~ 3 年	2 7	回 答 な し	4
3 ~ 4 年	1 3		

ク．独立、創業時に苦勞した点

独立までにそして独立直後に苦勞した点を質問してみた。個人個人により多種多様の困難を克服して現在に至っていることと想像され、ここに現れたものは事業に直接関係する代表的ないくつかにすぎないと考えておくべきだろう。当然、重複回答があるが、資金繰りを挙げた者が78名中45名と断然多い。回答者の大半が独立資金を自己資金によったとしている以上、金銭的に余裕もなく、資金繰りに苦勞したであろうことは想像に難くない。取引先の開拓、言葉等がこれに次ぐが、言葉は新来の移住者につきまとう問題点であろう。人材不足を挙げた者も13名いたが、これをどのようにして充足していったかは興味のあるところであるが、今回調査では不明である。回答状況は表8の通り。

(表8) 独立、創業時に苦勞した点

項 目	件 数	項 目	件 数
資 金 繰 り	4 5	イ ン フ レ	6
言 葉	1 7	取 引 先 開 拓	1 8
人 材 不 足	1 3	そ の 他	2
法 令 関 係	6		
材 料 不 足	6	計	1 1 3

(重複回答有)

ケ. 従業員数

表9に見る通り従業員10人以下の零細企業が全体の約半数を占めるのはブラジル生活のそう長くない移住者が創業者である以上、当然のことともいえよう。今後の発展を期待するところであるが、そのことよりも50人以上の従業員を要する企業が8件にもものぼっていることに注目すべきであろう。内2件は100名以上の従業員数となっている。

(表9) 従業員数

従業員数	0~5人	6~10人	11~20人	21~50人	51~100人	101~人
件数	28	14	10	12	6	2

(マッサーノ師1、未回答5、0~5人区分には、従業員数0が5件含まれる。)

従業員中に占める日系人の割合を参考までに見てみると表10の通りである。従業員数の少ない企業程、日系人比率が高くなるのが通常であるが、この表では21~50人、51~100人の区分でこの率が逆に高くなっている。これは、21~50人の区分には従業員24人中、日系人22人、又51~100人の区分には70人中日系人68人という特殊なケースが含まれているため、これを除くと夫々130%、142%となる。10人以上100人以内の企業での日系人比率には大差がないという結果である。

(表10) 従業員中の日系比率

従業員数	日系比率	従業員数	日系比率
0~5人	46.9%	21~50人	179%
6~10人	31.9	51~100人	266
11~20人	16.9	101人~	104

コ. 月 収

企業者しかも零細な企業経営の段階では経営者個人の収入を明確にすることも困難であるし、その額の大小を比較することもあまり意味はないが、一応とりまとめてみると表11の通りである。

経営者とはいいながら、3万クルゼーロ以下が40%強あり、これは技術者として勤務したときの給与としても決して高いものではない。

一方、5万クルゼーロ以上の高給者も全体の1/1に近い。特に8万クルゼーロ以上という会社勤めでは望み得ない月収を得ている者も8名ある。

(表11) 月 収 額

月 収 額	件 数	月 収 額	件 数
2 万 以 下 Cr\$	1 4	5 万 以 下 Cr\$	9
3 万 以 下	1 9	8 万 以 下	1 1
4 万 以 下	1 1	8 万 以 上	8

(未回答6)

サ. 移住者の採用意志

今後、技術移住者として日本人を呼寄せ採加する意志についての質問であるが、採用することを考えている者が、49名と全体の63%を占めたことは今後の技術移住季望者にとって心強いことであろう。自からが雇用者として呼寄せられた者が、今独立し自分達の後輩移住者を呼寄せるとするのは、海外移住の望ましい形であろう。

一方、全体の1/1に当る20名は、その意志がないことを明確に表明している。この人達は、現在の雇用者にも日系人比率は低い傾向のようだ。(全体の日系人比率21.9%、このグループは12.6%)。9名は回答なし。

ン. 独立の動機

重複回答もあるが表12に見る通り、回答者中40名が移住当時より独立を狙っていたことになる。移住者の多くは農業移住者、技術移住者の区別なく、一応独立することを移住の目的としているであろうが、回答者の30%近くが、たまたまチャンスがあったからと答え、更に20%の者が小資本でも独立が可能であっ

たからと答えているのは、日本とブラジルのこゝした面での比較として興味あるところである。

(表12) 独立の動機

動 機	回 答 数	動 機	回 答 数
移住時からの希望	40	小資本での独立が可能	16
自己の能力を試す	13	サラリーマンからの脱皮	17
よりよい収入	4	そ の 他	?
遇然のチャンス	22	計	115

ス. 独立希望者へのアドバイス

今後、独立を計画又は希望しているものに対するアドバイスを求めたところ、表13のような結果を得た。アドバイスの夫々が、独立するについて至当であることは想像出来る。アドバイスの内容では精神面を強調する者の方が多いのは興味あるところである。

(表13)

ア ド バ イ ス	件 数
ブラジル事情をよく調査する	22
忍耐強く続ける	11
十分な資金を準備する	11
サラリーマン意識をすて根性をもつ	7
努力あるのみ	6
思い切って独立する	6
高度の技術を身につける	5
信用をつける	2
良きパートナーを選ぶ	2

セ. 工業融資について

事業団の実施している小工業融資について質問を行なった。現在までにこの融資を受けた者は、17名と全体の20%強と意外に少なかった。ただ、今後の希望としては、60名の者がこの融資を受けたいとしている。

なお、この融資に関する各人の要望を聞いた結果は、表14の通りであり、

貸付枠の増大、手続の簡素化等の要望が多かった。商業融資や住宅融資の希望は、本質問とは直接関係のないものであるが、こうした希望もあることを心にとめておく必要がある。

(表14) 工業融資への要望

要 望 事 項	件 数
貸付額の増額	18
手続事務の簡素化	16
商業融資、住宅融資等融資枠拡大	11
担保の提供により保証人なしの融資の実行	5
独立の苦しい時期の融資実行	3
機械類を担保として認める	2
返済期間の延長	2

4. 若 干 の 考 察

1961年から77年までにブラジルに移住した技術移住者は、1,174名であり、昨年までの工業技術移住者実態調査により、この内ほぼ100名の者が独立しているとみられる。今回調査では、78名の独立自営者から回答を得て、かなり信頼度の高い調査となっている。しかし、調査項目は多方面、詳細にわたり単純にとりまとめることの出来なかつた項目も多かつた。ここにとりまとめ印刷した事項は、割合、一般的な項目を選び集計したものである。

今回調査対象者の移住から独立に至る年数は、5年以内という回答が多かつたが、これは、幸運にも独立を果たした者の結果であつて、移住して相当の年月を経てもなお独立の夢を持ちながら果さず、今日も日々努力している者も多いはずである。(昭和53年度工業技術移住者実態調査の結果では、回答611件中、独立の希望有としたものは234名であつた。)

経営形態や業種についてみると、共同経営の形で独立への一歩を進める者も多いようだ。業種的には多岐多様な分野に進出しているが、やはり自分の技術を生かし

た分野での独立が多く見られる。レストランの6件というのが専門以外での独立では目立っているが、カナダ等でも日本レストランでの移住者の独立が多く見られるように比較的独立開始が容易であり、相手国の人達との競合も少ないということかも知れない。

独立資金を市中銀行から借出した者が2名と非常に少なかった点については、調査結果の項でも述べた通り移住者ゆえに信用度も低く、強力な保証人を得ることもならず、担保物件にも乏しい者にとって、これは利用しなかったというよりは利用出来なかったということであろう。ほとんどのものが自己の動かし得る資金を全て動員して事業を開始したであろうことは想像に難くない。それ故、独立から創業初期の苦勞した点として多くが資金繰りを挙げ、独立希望者へのアドバイスで充分な資金を準備し、信用をつけて置くべしと述べる一方で、根性と努力、忍耐を強調しているのもこうした苦勞を十二分に味った結果であろう。当然、事業団の融資に対しても独立当初の苦しい時期に融資を実行してほしいと要望している。今後の課題として考える必要がある。

独立はしてみても事業経営は、なま易しいものではなく事業が軌道に乗るまでは数年を要するし、次のステップを考えると日々努力の毎日といえようか。月収を見ても雇用されてゆく技術移住者の給与と比しても決して高くはなく、むしろ平均よりも低いものも多い。(事業団が紹介する技術移住者の最低給与は現在2万クルゼーロとされ多くは3万クルゼーロ程度である。)経営規模を見ても従業員数10名以下が半数以上となっている。

独立の動機の項でみた通り、移住者の多くが移住の一つの目的として独立自営を考えており、又、我々の移住相談のプロセスでもこの独立という点が大きなセールスポイントとなっていることを考えれば、独立のための融資等保護施策を充実させることは急務であろう。

Ⅱ. 西 一 語 圈

工業技術移住者実態調査

1. アルゼンティンにおける調査結果

(1) 調査方法

受入移住者の内、工業技術移住者を抽出し、面談、電話による聴取調査を実施した。調査票に類するものは用いず移住者の現況把握のみとした。又、本人の調査ではなく、知人等からの情報によったものもある。

(2) 調査結果

表1 技術移住者実態調査表

No.	実回時 家族数	来亜年月日	出身県	現 状
1	1	1966年 1月19日	新 潟	1971年7月修理業で独立、1974年6月マルデルプラタに移転、日本の光電代理店従業員3名、ランプ、レーダー(漁船)の取扱い及び修理、盛業中
2	1	〃	岩 手	帰 国
3	1	〃	栃 木	帰 国
4	1	1966年 6月18日	神奈川	1971年独立、コンデンサー製作、従業員常時30名程度、年商約3億ベソ、ブエノス市に営業所、チビルコイに工場がある
5	1	1967年 8月24日	神奈川	1976年引受企業を退社後外人経営の会社に移動、1979年末亜国人と共同にて、プラスチック製品工場を経営(ブエノス市郊外)盛業中
6	1	1966年 4月15日	沖 縄	不 明
7	1	〃	〃	不 明
8	1	1966年 6月21日	〃	不 明
9	1	1967年 4月17日	東 京	帰 国
10	1	1968年 6月20日	〃	独立(修理業)その後帰国
11	1	1968年10月18日	栃 木	ブルサッコにて1978年日本様式の陶器にて独立、盛業中
12	4	1968年10月18日	埼 玉	サルタ州エンバルカジョンにて、電気器具販売及び修理、従業員1名を使用、盛業中
13	1	1968年12月23日	宮 城	約2年間就働後帰国
14	1	1969年 9月	大 阪	帰 国
15	1	1969年10月	長 崎	1980年3月迄就働後、№11の移住者と共営で陶器製造業を設立
16	1	1969年10月	愛 知	1971年退職 帰国
17	1	〃	〃	〃
18	1	〃	〃	〃
19	1	1970年 2月13日	京 都	帰国したもよう
20	1	〃	千 葉	退社後再渡航、会社経営、現在は帰国したもよう
21	1	1970年 4月19日	秋 田	帰 国
22	1	〃	高 知	帰 国
23	1	〃	秋 田	帰 国
24	1	1970年 4月19日	北海道	帰 国
25	1	1970年 6月1日	愛 媛	現在ブエノス市にて、魚類輸出の事業を経営
26	1	1970年10月20日	広 島	不明なるも帰国したもよう
27	1	1971年 2月15日	三 重	ドントクワトにて独立、磁器製洋人形の生産販売(1974年独立)家内工業であるが盛業中、従業員2名

No	来歴時 家族数	来歴年月日	出身県	現 状
28	1	1971年 2月15日	大分	帰国
29	1	〃	山梨	帰国
30	1	〃	熊本	帰国
31	1	〃	兵庫	帰国
32	1	〃	鹿児島	現在引受企業にて幹部社員として就働中
33	1	1971年 4月19日	東京	引受企業から転職の後、現在は日語教師等
34	1	1971年 6月19日	愛媛	退社後ソクマン市にて洗染店経営
35	1	〃	鹿児島	帰国、その後再渡航、ソクマン市にて電気店経営
36	1	1971年10月20日	沖縄	帰国
37	1	1971年12月18日	福島	リオクワトロにて修理業(タジュールにて独立)
38	1	1972年 4月22日	長野	配管業にて独立、妻は美容店経営
39	2	〃	福岡	契約年限以上に就働、1975年プエノス市にて電気店並びに修理業として独立、従業員1名盛業中
40	1	〃	宮城	帰国
41	1	1972年 9月15日	石川	帰国
42	1	〃	香川	帰国したもよう
43	1	〃	東京	1973年帰国
44	1	1973年 1月12日	東京	引受企業退社後独立、そえに失敗し、現在ブラジル、サンパウロに転住
45	1	〃	千葉	帰国
46	1	1974年 9月 9日	大阪	皮製品加工業にて独立
47	1	1975年 7月14日	東京	漁船器具輸入、魚類輸出等の会社に社員として就働中
48	1	〃	愛知	家内工業の絵付けにて独立(陶器絵付け)
49	1	1975年10月27日	長崎	現在、日語校教師
50	1	1975年11月17日	愛知	現在、幹部社員として就働中
51	1	1975年11月17日	愛知	1979年引受企業を退社、ブルサッコにてNo11の移住者と共営。経営は順調に発展している
52	1	1976年 1月19日	神奈川	帰国
53	2	1976年 5月24日	沖縄	引受企業にて電気器具販売、修理業に就働中
54	3	1976年 7月12日	〃	同上
55	1	1976年 8月23日	愛知	帰国
56	2	1977年 1月24日	沖縄	洗染業従業員として転業したもよう
57	1	1979年 1月29日	東京	現在就働中(魚類の輸入業務)
58	10	1979年 3月17日	沖縄	全員帰国
59	1	1957年 5月31日	神奈川	馬具製造工場
60	1	1957年 6月19日	奈良	現在、日本商社勤務
61	4	1959年 2月10日	鹿児島	帰国
62	1	1959年 6月 9日	〃	帰国したもようであるが不明
63	1	1961年11月24日	神奈川	死亡
64	1	〃	大阪	現在、日本商社勤務中
65	1	1964年 9月25日	東京	帰国
66	1	1965年 4月16日	東京	製茶技術者として渡航、現在日系商社社員
67	1	1969年12月17日	愛知	1975年帰国
68	1	〃	千葉	帰国
69	1	〃	岩手	現在、引受企業のプエノス本店にて幹部として就働中

(3) ま と め

本調査は、1957年度より1979年度の間技術移住者69名に対し実施した。内、帰国者および消息不明者が37名と半数を越えている。又、ブラジルへの転住者1名、死亡者1名が報告されている。独立した者17名は、調査総数の約1/4である。引受企業にそのまま就労している者は6名であるが、内半数は幹部社員に登用されている。転職者7名の内2名は日語教師である。

2. パラグアイにおける調査結果

(アスンシオン支部にて集計、作成した。)

(1) 調査目的

パ国に移住した工業技術移住者を対象としてその家族、生活環境、収支及び移住に関する感想等を調査し現状を把握すると共に今後の工業移住業務推進上の資料とすることを目的とした。

(2) 調査方法の概要

ア. 調査対象

イタブア製油K.K.、豊歳社、アグロセンターK.K.、大林組等に事業団扱いで移住した工業技術移住者全員を対象とした。

イ. 調査の方法

調査員が、対象者と面接して記入する個別面接聴取を原則としたが、事前に企業を通じ調査票(資料2)を配布、本人に記入してもらい回収に赴く方法も併用した。

ウ. 調査時期

昭和55年1月に実施した。

エ. 調査対象者就労先

イタブア製油K.K.	4名	在、エンカルナシオン
豊歳K.K.	4名	在、アスンシオン
アグロセンターK.K.	1名	在、アスンシオン
大林組	1名	在、エンカルナシオン
計	10名	

(3) 調査結果

ア. 年 齢		
20才～25才未満	3名	
25才～30才未満	3名	
30才～35才未満	1名	
35才以上	3名	
イ. 家族数		
単 身	6名	
3人家族	1家族	
4人家族	3家族	
ウ. 経過年数		
3年未満	8名	
3年以上6年未満	1名	
6年以上	1名	
エ. 住宅形態		
下 宿	4名	
独立家屋	2名	購入支払中
寮	2名	
借 家	2名	
オ. 就労先形態		
日系企業	10名	
カ. 給 与		
3万以上～5万未満	3名	
5万以上～8万未満	4名	
8万以上	3名	
キ. 担当している主な仕事		
エンジン関係修理	2名	
整備新車組立	2名	
車販売責任者	1名	
CAICISA農園管理	2名	
植物油品質管理	1名	
精製管理監督	1名	
重機、車輛整備	1名	
ク. 労働時間		
午前 7時～11時半	5名	
7時～12時	5名	

午後	1時	—	4時半	1名
	2時半	—	6時半	3名
	3時	—	7時	1名
	3時	—	6時	4名
	1時	—	6時	1名

土曜日 午前中のみ

ケ. 学 歴

専門高校(機械科)卒	3名
外語大卒	1名
中学卒	3名
大学(土木)卒	1名
農大卒	2名

(4) アンケート調査結果

1) 就労状況

ア. 現在の職場に満足していますか

a) 人間関係

満足している	0名
普通	8名
不満足	2名

b) 仕事の内容

満足している	0名
普通	8名
不満足	2名

c) 厚生施設

満足している	1名
普通	2名
不満足	6名
回答なし	1名

d) 給料は同僚に比べて

妥当と思う	1名
普通	5名
妥当でない	3名
回答なし	1名

e) 給料は他社に比べて

妥当と思う	0名
普通	4名
分らない	6名

f) 現在の会社は能力主義だと思う		
普通	3名	
思わない	6名	
分らない	1名	
g) 転職希望について		
あり	5名	
なし	5名	
イ. 技術について		
a) 機械、工具等は日本と比べて進歩している		
同程度	2名	
遅れている	7名	
回答なし	1名	
b) 職種転換について希望あり		
なし	9名	
分からない	1名	
c) 職種転換の経験		
あり	1名	結果は同じ
なし	9名	
ウ. 一般生活について		
a) 当国に定住		
する	2名	
まだ判らない	6名	
帰国したい	2名	
b) 携行資金		
28,000\$	1名	
5,000\$	1名	
3,000\$	1名	
2,000\$	2名	
1,000\$	1名	
100\$	1名	
0\$	3名	
c) パ国人の親しい友人		
5人以上	6名	
なし	2名	
2-3人	1名	
4-5人	1名	
エ. 結婚について		
a) 既婚者について		
日本人	2名	
非日系人	2名	

- b) 未婚者の結婚について
- | | |
|----------|----|
| 日本から呼びたい | 0名 |
| 当地で選ぶ | 2名 |
| 考えていない | 4名 |
- c) 留守家族との通信（年）
- | | |
|---------|----|
| 1～2通程度 | 1名 |
| 3～5通程度 | 3名 |
| 5～10通程度 | 1名 |
| 10～以上 | 2名 |
| 殆んどない | 3名 |
- d) 一ヶ月の生活費（平均、既婚者も含む） 単位：円
- | | |
|----------|--------|
| 住宅費平均 | 12,000 |
| 食費 | 19,500 |
| 被服費 | 4,600 |
| 医療費 | 6,000 |
| 雑費（含交際費） | 11,500 |
| 計 | 56,600 |
- e) 現在の語学の程度は
- | | |
|-----------|----|
| 新聞を解説できる | 2名 |
| 仕事上不自由しない | 2名 |
| 不自由している | 6名 |

オ. 移住その他

- a) 移住して
- | | |
|----------|----|
| 良かった | 3名 |
| まだ判らない | 5名 |
| いずれ帰国したい | 2名 |

良かったと回答した理由には、日本でえられない経験が出来る事、自立出来ると思うから等である。まだ判らないと回答した裏には、生活にゆとり、楽しみがないのが主となっている。

- b) 事業団に対する要望事項
- 日本で受けた情報と実情が余りにもかけはなれているので正確な情報を流してほしい。
 - あっせんだけでなくその後の生活指導等もお願いしたい等である。

3. ポリヴィアにおける調査結果

(1) 調査方法

バラグェイに同じ。

(2) 調査結果

2件のみ調査票回収であったため、ここではアンケート調査についてのみとりまとめてみた。(回答者は共に家族移住で、移住後2年半、3年である。)

ア. 就労状況について

職場や給料については、回答者2人共が普通又は満足(妥当)と答えており、それ程問題がないようだ。当然のことながら転職の意志もない。

しかし、両名とも職場を日本と異なる能力主義と考えている。(就労先は共に日系である。)

イ. 技術について

日本と比較して1名が施設や工具が遅れているとしているが、各人の技術は現在の職場で充分生かされているようだ。

ウ. 一般生活について

ボリヴィアに定住するかどうかについての質問に対し、1名は定住すると答え、他の1名はまだ解らないとしている。他の質問とも関連するが、この定住すると答えた者も移住して良かったかどうかについては政情の不安を理由に、まだ判断を下せないとしている。定住の意志を決しかねている1名は移住して良かったかどうかの質問に対し、いずれ帰国したいと答えている。定住するとしても一生をボリヴィアで過ごすよりも、最後は日本に帰国したいということだろう。

現地でのボリヴィア人友人も4~5名持ち、言葉も日常生活には不自由なくゴルフ等の趣味を持っていると答えているところからすると、定住するかどうかという将来のことは別に現在の生活には特に不平、不安があるとは受けとれない。これは、収入も一般と比しまずまずの水準であることにもよるのであろう。

エ. 移住、その他について

移住して良かったと思うかどうかの質問に対しては先に述べた通りの回答であった。

後続移住者へのアドバイスは次の通りであった。「言葉・習慣を良く理解すること。日本の技術は出来る限り身につけること。」「しっかりした基本理念にのり、行動・移住して欲しい。」

資料 2.

No 1

工業移住者各位殿

1978年7月

国際協力事業団

工業移住者の実態調査について（協力依頼）

貴殿ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
 さて、1964年（昭和36年）に、工業移住者制度が開始されて以来、既に17年の年月が経過し、本年1月までに約1500名の仲間が移住してきており、フランス工業界の各分野で活躍しております。当事業団では、このたび工業移住者の実態を把握し、今後の海外移住推進のための貴重な資料に供したいものと考え、実態調査を実施することになりました。
 つきましては御多忙中のところ、甚だ恐縮とは存じますが、本調査に何卒ご協力方よろしくお願い申し上げます。

工業移住者実態調査票

		整理番号			
		調査日	1978年	月	日
		調査員			
(一) 一般状況					
氏名	ローマ字				
生年月日	19	年	月	日(満才)	階伯年月 19
出身県	部、道、府、県	階伯時	A. 未婚	B. 既婚(子供人)	兄弟(姉妹) 人
最終学歴	中学、高校、専門学校、短大、大、大学院 (中退、卒業)				
引受企業	階伯時の職種				
家族状況	続柄	年齢	国籍	備考 変化、結婚時期、子供の校(公私立)及び学年、etc	
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
現住所	Fone.:				

日本国内の連絡先及び氏名		(校柄)					
住宅	I	A 独立家屋	B. アパート	C. 間借り	D 下宿	E 卒	F その他
	II.	A. 自己所有		B 払込中	C 貸借		D その他
資産	A 現金金 CR\$		B. 不動産 (1. CR\$		2 CR\$)
	C. 公社債 CR\$		D. 車 CR\$		E. その他		

(二) 現就労概況 (*独立者は (三) に記入のこと)

就労会社							
所在地							
資本形態	A. 日系コロニア		B. 日系進出		C. フランチャイズ企業		D. 外国 () 系
生産品目							
所属部署 (役職名)			給料	CR\$ (月より)		過去1年に 回 昇給	
労働時間	週	日割 (午前)	時~	時 (午後)	時~	時	時 時
担当している主な仕事の内容							
独立の希望	A. あり (年後が目標)		B. なし				

(三) 自営状況 (*共営を含み独立者のみ記入のこと)

会社名	(自営、共営)						
所在地							
設立年月	19 年 月	業種			従業員	人	
資本金	A 設立時 CR\$		B. 現在 CR\$		C. 自己出資 %		
資本調達法	A. 自己資金		B. 親元より送金		C 市中銀行		D 事業団融資 E. その他
年間生産量	生産品目		年間売上高 CR\$				
平均月収	CR\$		機械 設備等の評価額		CR\$		
主な取引先							
敷地	I. 土地		㎡. 建物		㎡ II. 自己所有、貸借、払込中、その他		
会社の収支状況	月平均収入 CR\$			月平均支出 CR\$			
	支出内訳 (人件費		%、原材料費		%、設備費		%、諸税その他 %
事業団の工業融資	A. 受けた経験あり		B. 希望する (CR\$		程度) C. 希望なし		

アンケート調査票

(氏名) _____

(一) 就労状況

1. 現在の職場			
(イ) 人間関係	A. 満足	B. 普通	C. 不満足
(ロ) 仕事の内容	A. 満足	B. 普通	C. 不満足
(ハ) 厚生施設	A. 満足	B. 普通	C. 不満足
(ニ) その他 ()	A. 満足	B. 普通	C. 不満足
2. 給料は同僚に比べて	A. 妥当と思う	B. 普通	C. 妥当でない
3. 給料は他社に比べて	A. 妥当と思う	B. 普通	C. 妥当でない
4. 現在の会社は	A. 能力主義だと思う	B. 普通	C. 思わない
5. 転社希望	A. あり	B. なし	

(二) 技 術

6. 機械施設、工具等は日本と比べて	A. 遅歩している	B. 同程度	C. 遅れている
7. 職種転換について	A. 希望あり	B. なし	
8. 職種転換の経緯	A. あり	B. なし	
9. あればその職種内容	□ → □	結果 (A. 良かった B. 同じ C. 悪かった)	
10. 日本で習得しておけば良かったと思う専門技術			

(三) 一般生活

11. 当国に定住	A. 定住する	B. まだ判らない	C. 帰国したい
12. 携行資金		トル	追加送金額 ドル
13. ブラジル人の親しい友人	A. 5人以上	B. 4-5人	C. 2-3人 D. なし
14. 結婚 (既婚者)	A. 日本で結婚	B. 好奇	C. 当地で結婚 (日系一世、日系二・三世、日系人外)
15. 結婚相手 (未婚者)	A. 日本から呼びたい	B. 当地で選ぶ	(日系人、日系人外、どちらでもよい)
16. 結婚時期 (未婚者)	A. 1年以内	B. 2年	C. 3-4年 D. まだ考えていない
17. 留守家族との交通	A. 年間	通程度	B. 殆んどなし
18. ブラジル人の性格	(関心)		
19. 1ヶ月の生活費	約 CR\$	A. 住宅費 CR\$	
	B. 食費 CR\$	C. 衣料費 CR\$	
	D. 医療費 CR\$	E. 雑費 CR\$	

20, 住 宅	I 自己所有 (A. 支払済 B. 払込中 (毎月CR\$ 毎年CR\$))
	II. 借 ぎ (家賃 毎月CR\$) III. 間借り (部屋代 毎月CR\$)
	IV. 下 宿 (A. 食事付 毎月CR\$ B. 食事なし 毎月CR\$)
	V その他
21, 借家の契約方法	I. 保証人あり (A. 会社で世話 B. 知人 C. 保証業業者)
	II 保証人なし (A. 貯金積 B. 一切不要)
22, 自 家 用 車	車種 19 年型
23, 種 味・調 味	
24, 子供の学校教育	A. ブラジル語のみ B. ブラジル語と日本語
25, 家庭での使用言葉	A. ブラジル語 B. なるべくブラジル語 C. なるべく日本語 D. 日本語のみ
26, ブラジルでの教育	A. 受けた (年まで, 現在 年に在学) B. 家庭教師 (約 年) C. なし
27, 現在の語学程度	A. 新聞を読解できる B. 仕事上不自由なし C. 日常生活に不自由なし D. 日常生活にも困る
28, 職場で語学に不自由しない程度になるのに要した年月	A. 1年位 B. 2年 C. 3年 D. 4年以上
29, REVALIDACAOに関して	A. エンジニアの資格を取得した B. 取得手続中 C. 関心なし
30, 副収入の有無	(配偶者の分も含めて) A. ある (毎月 約CR\$) B. なし
31, 訪日について	A. 訪日したことがある (着回数 年目) B. 予定している
32, 病気の場合 (家族を含めて)	A. I. N. P. S 病院を利用 B. 企業の医療施設を利用
	C. 個人病院 (日本、日本外) を利用 D. 接協病院を利用

(四) 移住, その他

33, 移住して	A. 良かった B. まだ判らない C. いずれ帰国したい
34, その理由	
35, 工業移住者協会	A. 設立されたことを知っている B. 知らない
36, 協会の運営について	A. 積極的に参加したい B. 出来るだけ協力したい C. 関心なし
37, 協会に望むこと	
38, 後継移住者へのアドバイス	
39, 移住70周年に関して	A. 関心がある B. 余りない C. 全く関心なし
40, 当団の事務所を訪問したことがありますか	A. ある B. 行きたいがひまがない C. 行く用事がない
備考: 当団に関する要望事項等	



JICA